



神奈川県立川崎図書館 が所蔵する
全国有数の〈社史コレクション〉を
さらに活用していただくため、
社史の使い方や、社史の楽しさ、
社史情報などをお届けしていきます。



2019/10

社史フェア2019で気になった社史
がありました。遊園地の乗り物を扱ってい
る会社の社史です。そこで今回の『社楽』
では、遊園地の乗り物を扱っている会社の
社史を調べてみました。

● 『観覧車はまわる』（1981年刊）

株式会社トーゴサービスの前身東洋娯
楽株式会社社の50年史です。創業者の山
田貞一の生涯を辿る内容です。創業時はタ
クシー業でしたが、1935年頃「歩く象」
の製作に関わり娯楽機械業へ転業しまし
た。その後、荒川遊園地、豊島園、多摩川
園、浅草楽天地（現在の浅草花やしき）な
どに機械を設置しますが、戦争の物資供給

のため、遊戯施設が解体されます。

戦後すぐに事業を再開し、向ヶ丘遊園に
ウォーターシュート、浅草花やしきに日本
初のローラーコースターを完成させて遊
園地施設の一大転換をもたらしました。第
2章第3話に「日本の遊園地前史」を含み、
昭和50年頃までの日本の遊園地の歴史
の一部を辿ることができる1冊です。

● 『History of Hope』（2002年刊）

株式会社ホープは、自動車の修理と販売
を業とするホープ商会を前身とした会社
です。戦後、軽自動車三輪車の「ホープスタ
ー（オート三輪）」を製造していました。

新規事業を模索する中、小型自動車で培
った技術をもとに、遊戯機械の製作に力を
注ぐようになります。やがて百貨店の屋上
によくある小型自動木馬や電車、自動車を
模した小型自動乗り物を数多く製作する
ようになりました。

ワニワニパニックなどゲーム機の製造
も行っていました。社名を株式会社KH
Pと改称した後2017年に解散となり
ました。

社史には、2002年まで製造されてい
た乗り物の写真が多く掲載されており、今
では見ることでできない当時の小型自動
乗り物の足跡を知ることができます。

（裏面に続く）

遊園地の乗り物をつくる会社

(表面から続く)

『サノヤス・ヒシノ明昌100年史』(2011年刊)

サノヤスホールディングスの100年史です。1992年、国内で初めての移動遊園地(キルメス名古屋)に、地上50mの大観覧車やメリーゴーランド、ゴーカートなど15種類もの大型遊戯機械を設置し営業参加しました。1998年には、大阪梅田の大型ビルに「阪急HEP FIVE観覧車」を設置しました。計画の段階で阪神・淡路大震災が発生し、構造計算をやり直し、耐震をより意識した設計へ変更したことが記録されています。

1999年には、お台場のパレットタウンに大観覧車を設置し、観覧車は遊園地にあるものという概念を覆すきっかけをつくりました。造船業などの事業と共に遊戯機械設備業で、ものづくり技術の継承にこだわった会社の社史です。

『阪和興業七十年史』(2018年刊)

鉄鋼製品の売買の創業からグローバルな事業を展開する商社へと成長した阪和興業株式会社の70年史です。

1987年、神戸ポートピアアイランドに輸入大型遊戯機械を納入し、1989年から機械部門はレジャー機械に特化した事業に切り替えました。そして、大型遊戯機械を王子ファンシーランド、スペースワールドなどの新設施設に次々と納入しました。

2016年には、ららぽーとEXPOCITY(大阪府吹田市)に、自社が元請で受注し設計・製作・施工した、地上高123mの観覧車「REDHORSE OSAKA WHEEL」(当時日本最大)がグランドオープンしました。

世界で初となる基礎免震構造を採用した観覧車の主要部材である中心軸は、北海道室蘭で製作し、海上輸送で尼崎港まで運搬しました。港から現地までの陸上運搬ルートを確認させるだけで、3ヶ月

を要したことが記録されています。

『泉陽興業60年史』(2018年刊)

泉陽興業株式会社の60年史です。創業者山田三郎氏は、学生時代に屋上遊園地でアルバイトをした経験が忘れられず屋上に遊園施設を設置して運営する事業を開始。高島屋大阪店をはじめ、大手百貨店の屋上に遊園地を開設しました。1958年頃のことでした。

大阪万博の際に山田氏は、全日本遊園地施設事業協同組合の理事長としてエキスポランドの開設に尽力し、会社としては回転ブランコなどの遊戯機械の企画・設計・製作・施工、運営及び施設営業に参加しました。また、多くの自社製品のなかで、サイクルモノレールをヒットさせました。

横浜博覧会閉幕後には、よこはまコスモワールドを開設したほか、東京都葛西臨海公園の大観覧車など数多くの観覧車も設置しています。

最近では富士川S.Aの大観覧車、ハウステンボスの「VR・KING」(世界最高・世界最速・世界最長のジェットコースターをVR体験できる施設)をオープンしています。

60年間に携わった多くの事業の記録に驚かされた社史でした。

調べた結果、日本の遊園地を支え続けた会社の歴史を改めて知ることができ、乗り物の移り変わりも懐かしい気持ちで楽しめました。

(企画情報課 小池貴子)

●お問合せ先 神奈川県立川崎図書館 企画情報課●

〒213-0012 川崎市高津区坂戸3-2-1 かながわサイエンスパーク 西棟2F

電話：044-299-7826 FAX：044-322-8878

<https://www.klnet.pref.kanagawa.jp/kawasaki/index.html>